ビブリア

発行　いわき市平上荒川字長尾30
　　福島工業高等専門学校
編集　図書委員会
　　昭和60年12月18日

No. 58

福島高専 図書館報

◇巻頭言◇

青春の二側面と読書

一般科教官　桜田芳樹

人の一生を区切る語彙を幼年・少年・青年・中年・老年とならべてみると，「青年」だけが比喩的熟語であることに気づく。少年期と交錯して，「青春」と呼ばれるのも同じ発想による比喩である。この時期にのみこうした比喩語が使われるのは，幼いとか，少(わか)いとか，直叙だけではいい表し切れない重さを，先人が感じとってきたためだろう。

植物の成長に重ね合わされたこれらの語は，当然スクスクと伸びゆく若者をイメージさせるが，その成長は時に一年に10cmもの身長の伸びとなって表れるような急激なものである。しっかり根を張ることなく徒長した若木が時に風に吹き倒される危さとも無縁ではない。成長と危さは青春の表裏の二面である。「青春の輝き」(エリア・カザン監督)といったような常套句よりも，「青春残酷物語」(大島渚監督)，「青春の蹉跌」(石川達三著)などの不協和音的タイトルが，強い喚起性をもつのも，成長の影につきまとう不安――青春の二面性のためだろう。

成長とともに目覚める自意識は，「何者かになろう」とする自己達成をめざし，一方「何者になりうるのか」という期待と不安にゆれる。振り返ってみると，そこにこそ青年期の読書と思索の契機があったように思う。小林秀雄は「高等学校時代……学校の行き帰りに，電車の中で読む本，教室でひそかに読む本，家で読む本という具合に区別して，いつも数種の本を平行して読むようあんばいしていた。まことにばかげた次第であったが，その当時の常軌をはずれた知識欲とか好奇心とかはとうてい一つの本を読み終ってから他の本を聞くというような悠長なことを許さなかったのである。」(読書について)といっている。私にはそれほど旺盛な知識欲も実行力もなかったが，文庫の目録を開いては既読のタイトルに赤線を引き，○や◎の読書予定の目印をつけていた時の，アレもコレもまだ読んでいないという思い，一日もはやく世界の見取図を得たい，そしてどこかに自分の位置を見つけたいという性急な焦燥感と表裏するものとしてこの記述を読んでいる。

いま小林秀雄のように旺盛な「知識欲と好奇心」につき動かされている人はいい，その濫読をつきぬけた向うに何者かが待っているだろう。むしろ不安をエネルギーに転化できず，焦燥に駆られながら小さな逃避を繰り返している我党の諸君に，その不安と焦燥こそ成長と不可分の影であることを見据えてほしい。それが栄養として食いつぶしていくべき影として青年の誰にも用意されているもので，逃げていては退散してくれないものとひらき直ってもらいたい。書物の中に，必ず見取図案内図はひそんでいて，どこかに自分の占めるべき位置は用意されている。

「書を捨てよ町へ出よう」(寺山修司著)とは誠に蠱惑的なタイトルであるが，それは書物の毒にあたってからでおそくはない。

目　次

巻頭言 …… 1
随　想 …… 2
私の読書 …… 4
新着図書目録 …… 7

随　　想

アームチェアーバードウォッチャー

機械工学科教官　松　本　匡　以

九月の初め頃，連日の残業に追い立てられながら十月が来るのを待っていた。十月になって高専に来ればゆっくりと時間をかけて本が読める。自分を見つめ直す時間もできる，と自分自身に言い聞かせていた。

退職，引越しそして高専へ奉職。忙しい毎日を過ごしているうちに十一月。家の中や研究室もそれらしく格好がつき，授業もつまづきながらも何とかできる様になった。本を読む時間も予想通り増え，毎日目が開いている時間の大部分を活字を読むのに費している。そしてその内殆んどが専門書や論文を読んでいる。こういう状況が続くと，私の脳は怠惰にできているらしくて，家へ帰ったら久しぶりに推理小説にでも挑戦してやろうかなどと思っていてもつい軽い本をめくる程度となってしまう。

こんな毎日の中でちょっといい本を見つけたので紹介させて頂きたい。ここ数年間鳥を見る事を趣味にしている。この本は，新聞の広告欄で見て図鑑の一つにでもしようと思い二年前に購入したのだが，忙しさにかまけて数回めくっただけでそのままにしておいたものである。日本野鳥の会が監修して学研から出版された「鳥の歳時記１～５」（５冊組）という本である。

内容は四季折々（春，初夏，夏，秋，冬の五つに分けてそれぞれ一冊となっている）の野鳥の美しいカラー写真とエッセイ，そしてその季節に見られる野鳥の解説となっている。中でも光っているのが山本健吉氏が書いておられる「鳥の歳時記」の部分で，四季の野鳥とそれらにまつわる日本の詩歌を詩情たっぷりに解説している。

この「歳時記」の冬の鳥の所に次の様な歌が載っている。

　水鳥の鴨の羽色の春山の
　おぼつかなくも念ほゆるかも

これは，笠女郎が大伴家持に贈った歌と解説されているが，鴨の羽色が春山の序になっている所を見ると，古代の人々も真鴨の雄の頭部のエメラルドグリーンの色をたいへん美しいものと感じていた事がわかる。双眼鏡で鴨を見る時などこの歌を思い出しそうで，鳥を見る楽しみがまた一つ増えた様だ。

英国にはアームチェアーフィッシャーマンなる言葉があると何かの本で読んだことがある。これは実際に釣りに出かけず，椅子に坐り込んで釣竿を磨いたりし毛鉤を巻いたりしながら地図を眺めこの沼は釣れそうだとかこの川はだめだとか想いめぐらす人の事を言うらしい。この頃は休みの日の天気が悪かったり，いろいろな用事が重なったりして，アームチェアーフィッシャーマンならぬアームチェアーバードウォッチャーを決め込んでいる（近頃寒くなってきたのでアームチェアーから炬燵に変わりつつある）。

最近，新聞やテレビのニュースで白鳥が渡って来ている事を知らせる記事をちらほら見かける様になった。毎年正月の休みで帰って来て，その度白鳥を見に行きたいと思いながら実現できずにいた。しかし，今年はやっと夢がかないそうである。

　白鳥はかなしからずや空の青
　海のあをにも染まずただよふ　　牧水

澄みきった青空の下に真白な白鳥が優雅に羽ばたく景色を思い浮かべながら心を逸らせて図鑑を眺め望遠鏡を磨いていると，弾んだ心とは裏腹に炬燵や部屋の中の暖かさでだんだん目が空になってきて，ついには夢の中で白鳥が羽ばたき始めるのである。

「ワイン考」

電気工学科教官　春　日　　健

この夏帰省した折に南会津の葡萄園に出かけた。会津若松から車で一時間半，那須山系が望まれる山村地で中央を貫流している大川ラインはこの狭間を流下している。中間帯に属している南会津は山菜や川魚が豊富に採れるところでもあった。葡萄園をながめながら収穫された白ワインを，渓流でとれた山女魚をほんのりと焼きあげ，それを肴に飲んだ味は実においしいものであった。

ひと昔前の日本人にとってのワインはまるで薬用酒のごとくであり，甘いポートワインであった。

舶来崇拝的固定観念から，他の到来物の洋酒と並んでサイドボードに眠る飾りものにすぎなかったワインも今では気軽に自分の嗜好や目的に合わせた飲み方をしている。

少し前まで私は，ワインは古ければ古いほどいいと思っていたのである。要するに"何年もの"程おいしいという歴史への憧れであったが，本来ワインはあまり古くならないうちに飲むものであった。ラベルに記された年号は決してうまさを約束するものではなく単なる符丁にしかすぎないのだ。夏の暑い日の炭酸割やオンザロック，冬の寒い日はホットワインと飲み方にもそれぞれおもむきがある。国産ワインも年々品質のいいものが出まわっているし，おいしく抵抗なく飲んで相性のいいワインとのつきあいを大切にしたい。

数千年にわたり人それぞれのさまざまな人生模様を織りなすように楽しませてきたワインも名だたる銘醸ワインのあの人生を極めた大人の風格よりも質のいい素直な，さわやかな味はそれがつくられた風土のなかで，風土の味覚と共に楽しんでこそおいしいものではないだろうか。

ワインが現代に評価されているのは，それがナチュラルで健康的な日常的な飲みものであるゆえんだろう。

読書ノート

土木工学科教官　橋　本　孝　一

最近私が読んだ本といえば，「公害摘発最前線」とか，環境問題で活躍中の西村肇氏の「冒険する頭」など何らかの形で自分の専門に関連する書物が主で，それ以外の範疇の本となると，ハタと首をかしげてしまう。そんな自分に気づいて，いささか僻易しつつ改めて振り返ってみた。日頃，「学生は幅広く読書しなければ……」などと言い，かく言う自分も不断に幅広く読書しているつもりでいたのだから，赤裸々な自己を見つめ返すことはつらいことではある。日々の仕事や雑事に紛れて，知らず知らずのうちに読書範囲が限定されたものになり，ひいては思考の視野も狭く貧弱になっていたように思う。

そんな訳で，慌てて本棚の隅に埃を被っていた「読書ノート」を引っ張り出して，自信回復への手掛りにしようとする。そう，私にも学生時代から持っていた"旧き良き習慣"があったのである。これは，記憶力の勝れない私の自己防衛策で，せっかく感激した部分を記憶の底に沈澱させてしまうのは，いかにも惜しいと考えて始めたものだ。これが細々ではあるが今もって続いているのも，自分の性格に合った方法だったものと思う。

書物の中には，読書ノートにメモしたりしながら，じっくり踏みとどまって考えを発展させたりするには不向きの本もある。例えば，井上靖の「敦煌」や「風涛」などは，イッキに読破せずにはおれなかったし，読んだ後ノートするとせっかくの余韻が崩れてしまいそうな気がする。そんな本は書名だけ記してある。

とにかく学生時代の時期は，結構，浅くても幅広く読んだ形跡は，わが「読書ノート」から伺える。

学生時代の読書がきっかけになり，今でも楽しみの一つになっているものに短歌がある。なにげなく本屋で手にして読み始めたのが与謝野晶子歌集だ。"やわ肌の熱き血潮に触れもみで さびしからずや道を説く君"――なんと大胆な歌だろう。"鶏頭は憤怒の王に似たれども 水に映してみづからを愛づ"――かつて鶏を飼った経験のあった自分は，その見事な表現にすっかり虜になってしまった。それからは，吉井勇・北原白秋・佐藤春雄・島崎藤村などの詩歌集を手当たり次第に読み漁った。

青春の日の感激は，二十数年を経た今も鮮かに蘇ってくる。

「書物から学ぶ環境問題」

工業化学教官　引　地　　宏

数年前，環境化学の教科書に使用した「新しい化学＝生活環境と化学物質」岡本剛監訳（培風館），の原書を私が留学したアイオワ大学（米国）の法学，教育学，理学，工学を専攻する学生のための生活科学の授業に用いていました。

当初，私が大学生活に早く慣れ，相手の話を聞き取る訓練のため聴講した生活科学の教科書が「新しい化学」の原書とは気が付かず，2ケ月後にわかりました。原書は題目が「環境化学，Environmental Chemistry：An Introduction by Lucy T. Pryde」で，写真や図表が多く，頁数は訳本の約1.5倍のボリュームです。訳本を持っているとは知らず，私の読解力に教授はびっくりしていました。これで点数をあげ，その後の仕事や私に対する態度も変わり，大きなプラスと成りました。授業にはスライドやＯＨＰを用い，公害問題と成った多くの事例をあげて詳細に説明します。

汚染物質の性質，汚染源，汚染経路，汚染の分

布とその影響，裁判所の判決，その後の対策，今後の問題点まで説明します。授業終了時には必ず宿題があり，次回の授業開始時にレポートを提出します。宿題の内容は次回に講義する際の重要な語句や汚染物質の性質などについてでした。各自図書館で調べ，数人で話し合って報告書をまとめます。ある程度予習をしてから授業を開くためわかり易く，質問されディスカッションすることも多く，進度はゆっくりですが，重点項目のみを触れて行きます。

教授は「環境問題の本質を理解するためには，できるだけ多くの本を読み，考え，ディスカッションすることによって，その解決への糸口を探ることができます。」とよく言います。また，「できるだけ多くの情報（文献）を集め，実験データを用いて汚染経路と汚染物質の移動速度をとらえ，コンピューターを用いて，汚染の経時変化を追跡することが大切である。」と言います。

環境問題に関する情報はテレビや新聞で逸速く報じられるが，その実態を詳しく調査し，解決への糸口を見出そうとはしない（一部の人以外は）。しかし，多くの環境問題は生産工場のみが解決すべきことだけではなく，消費者である国民１人１人の問題でもある。米国では，1970年頃から工業化社会の活動から生じた環境汚染に対する化学の役割を一般市民に教育することを試みられてきました。また，環境問題を自国だけの問題ではなく地球全体の問題として考えています。米国環境保護庁の主任研究員から，「日本は経済大国に成りました。物を生産するだけでなく，地球の自然環境の保全のためにも協力してほしい。」と言われたことが今でも忘れることができません。

「自然環境を汚すことは簡単であるが，回復させることは非常に困難である。」とよく言われます。

本校の図書館にも環境問題に関する本がたくさんあります。技術者として将来活躍する学生諸君には卒業時までに，できるだけ多くの本を読まれることをすすめたい。そして，試験のための勉強だけに終ることのないよう望みたい。

私の読書

四年生特集

「林檎の樹」

4年機械　星　正義

「黄金なる林檎の樹，美しく流るる歌姫のこえ。」これは，この作品の冒頭部分であるが，ギリシャ悲劇「ヒポリタス」の中で，悲恋の王妃フェードラが絶望の果て自殺しようとして退場した後に歌われるコーラスの一節である。この林檎の樹は，ギリシャ神話で大神ゼウスとその妃ヘラとの結婚記念として贈られたもので，ヘラはこれを遠い西方の島の美しい庭園に植えて，ヘスピリデスと呼ばれる三人の歌姫たちに保管させていた。また，その歌姫たちを助けるために，百の頭を持った龍が寝ずの番をしていたので，誰一人として近よることも林檎を盗ることもできないのだった。つまり理想郷というものは，この世ではいかに望んでも到達することは出来ないという意味で，この小説のテーマであると同時にシンボルになっている。

この物語は，主人公アシャーストの若き日の，ふとした出来心の恋愛を描き，青年の感じやすくまたうつろいやすい心理を微妙に描いている。

アシャーストは若き日，徒歩旅行の途中，デボンジャーの荒原地帯を訪れ，そこで可憐な田舎の少女ミーガンと知り合う。ミーガンは脱俗的理想家肌の青年アシャーストに思いを寄せ，やがて二人は婚約するまでの仲となるのであった。アシャーストが町へ出かけたある日，偶然にも大学時代の親友ハリディに会う。アシャーストはハリディの家に招かれ，そこでステラと知り会う。町へは買い物の用できたはずのアシャーストであったがついついハリディたちのさそいにのり，いっしょに毎日を送ってしまうのであった。次第にアシャーストは，ステラに心をひかれ，とうとう二人は結ばれたのであった。そして，ひたすらアシャーストの帰りをまつミーガンは，恋の苦しさのあまりに自殺してしまうのであった。

もし，アシャーストが，ミーガンと結びついていたとしたら，果してそこに幸福が訪れることになったであろうか。都会の青年と田舎の少女の結婚生活は，やがて現実の中でさまざまな障害にぶつかるであろう。そうかといって，近代的な教養をもつ，美しい妻のステラといえども，かつての

失われた夢にまだあこがれているアシャーストを決して満足させてはくれないであろう。

現代社会に生きる人々は，濁りのない，真面目な生活を送ろうとすれば，満たされぬ欲望に悩まされ，また次々と新しい歓楽に身を任せば，必ず飽満と倦怠に苦しむ。そういう現代人の悲哀を，作者ゴールズワージーは語っていると思える。

この作品は，水彩画のような淡さで，哀愁を漂わせて，その奥に悲しみの深さを垣間見せているように思われる。

「パンセ」にふれて

4年化学　馬　上　伊三雄

私が読んだ本は，パンセ原書ではなく，ラフュマ版にもとづいてパスカル研究の第一人者である田辺保氏が解説したものであります。パンセに縁遠い人にも，「人間は考える葦である」とか，「クレオパトラの鼻が，もし低かったら……」という名言は誰しもが，一度は耳にした言葉だと思います。

この本を読んでみての第一印象としては，我々と比し，物の考え方が一つ一つの事象を科学者らしい立場から論証していったことで，その徹底した合理性には，目をひくものがあったと思います。パスカルと聞くと，すぐに科学者だというイメージが浮かびますが，実は彼は理性，意志共に強い哲学者でもあったのです。確かに科学者として残してきた業績には，例えば十代にして「音響論」，「ユークリッド幾何学」「円錐曲線試論」「計算器の発明」等，多大のものがあり，その中でも特に名の知れたものとして，液体の圧力に関する＜パスカルの原理＞があります。しかし，科学者としての彼は，自然科学においては理性が支配するという信念を強くもっていたと思われますが，しかしそんな彼にも理性によって理性の限界を知ったことで，それによって彼は哲学者としての道を歩んでいったように思われます。私はそんな彼の生きざまに共感を覚えました。

全体を通してみると，パスカルは人間の生き方を科学者の目から鋭くとらえ，激情が高調してゆく部分では，人間という生き物の矛盾性を，はっきりと主張していますが，こういった所に我々凡人とは異なった視覚性があったのでしょう。社会は近代化するに従い精神的荒廃を産み出して来ました。我々は生活の目まぐるしさのために人間のなしうる最も大切な「愛の本質」を忘れかけているのではないでしょうか？この本を読んで，それを強く痛感しました。そこで私は自身に対し次のように訴えたいと思いました。「我々は自己の本質に対する目的意識を強く持って生きていかなくてはならないことを……」

この本が三世紀も以前に書かれたものでありながら時代の目まぐるしさの波にのまれることなくこうして現在まで読者の目をひいていることは，ハイテク時代に生きる我々よりも，更に鋭い感受性があったからだと思われます。「パンセ」は，キリスト教弁証の書として書かれたものでありますが，そういった宗教書というよりは，正に「理性の本」と言った方が望ましいと思います。著者（田辺保氏）は最後に「キリスト教という一特殊宗教を越え，人間性を根底的に回復させ，さらに周囲の欺瞞的要素にたぶらかされることなく，この一点へ賭ける事を，わたしたち一人一人に力強く訴えかけてやまないものです。その一点，いうまでもなくそれは，全ての人間を生かす愛の火が永遠にもえる所です。」という熱いメッセージを送っています。

私は，この本から得た結論として，現代社会は確かに精神的デカダンを含んでいる。そして又，著しい流動性のために複雑化しつつある。我々はこの現代社会の中から，はっきりとした目的を一つもち，その一点に対する鋭さ，考えの奥深さを実生活の上から培っていくべきだと思いました。そして，全人類の幸福のために宗教の大切さを痛感し，心から感銘を受けました。

夜想７号「世紀末」
―カットアップ一題―

4年電気　猪　狩　真　一

世界は今，くまなく見つめられることによってその死をむかえようとしているのだろうか。

今日，絶望への権利に関して語ることほど容易なことはない。"1984"も"BRAVE NEW WORLD"も現実のものとなりつつある。

混乱した魂はいったいいくつ存在するのか。

黙示録の騎士でさえ既に現実のものである。

消費社会の内部では暴力信仰が増大し，エロチシズムは扼殺される。産業社会の極北において産褥の苦しみにとらわれ，圧倒的な"ARCTIC HISTERIA"の支配下におかれて，新たなる社会におけるシャーマンとなるべきものは現れるか。

人権主義的なものであれ，階級的なものであれ

国家主義的なものであれ，宗教的なものであれ，イデオロギーの解体乃至断片化が急激に進行し，多様化した世界において我々は多種多様な選択を迫られると同時に，帰属するべきものを一切もたないという情況下におかれている。だが一方で，我々は急速な，時として破壊的な解決を希求し，夢想する。

我々は，迅速な解決をめざして，ある種の選択をおこなった者たちの，少なくとも成功とは評価できない状態を見て来た。

我々は傍観者でありつづけることを強制されているのだろうか。

我々は時代に対する道標となることもできないのだろうか。

少なくともあなたの場合はどうであろう。

皇道大本の再評価，神道オカルティズムの復興，反知文化のネットワーク，そして神経系の延長上とも言うことができる種のテクノロジーの進化は来るべきΩ－POINTに対する一つの回答を与えている。個別化し，細分化する事よりむしろ，あらゆるものを融合し，意識を推し拡げる事が重要なのである。

現存する構造を切り刻め。

意識下の情報を消去せよ。

前頭葉を平常以上に酷使し，神経ネットワークに強烈に働きかけ，激しい意識の高揚，灼熱の狂気に身をさらす歓喜をとりもどせ。

自らが巨大なエクスタシーの発現装置となり，恍惚を求めるのだ。

死ね――経倫はすぐそこだ。

「現実をえぐる奇想」

「小説熱海殺人事件」つかこうへい著

4年土木　石　井　政　宅

現在，我々の年代におけるつかこうへいへの認識度というのはどれ程であろうか。

本屋でつか氏の著書が並んでいるのを見たことがある，というだけの人ならばつかこうへいは小説家，ないしエッセイストと認識していることだろう。それより一歩進んで，映画もしくは映画の宣伝広告等で「原作・脚本　つかこうへい」という文字を読んだことがある，という人ならば，つかこうへいは小説家であると共に脚本家であるという認識を持っているであろう。いずれにしてもつかこうへいは「書き手」，それも喜劇作家だと認識している人が多くなってきているようだし，これからもそういう人がどんどん増えてくると思われる。それというのも三年前，つか氏が自ら率いていた劇団「つかこうへい事務所」を解散し，演劇廃業をしたことにより，我々の目の前に「演出家・つかこうへい」の名前が出ることがほとんどなくなってきたからである。が，しかし，ここまではつかこうへいの名前を知っているだけで，彼の著書を読んだことがない人達の話である。

つか氏の著書を読んだことがある人ならば，つか氏が三年前まで舞台の演出家をしていたという事実を，読む以前に知っていなかったとしても，その事実を強く感じることができたと思う。それほどつか氏の小説というのは演劇的色彩が強い。このいわき市に生まれ，演劇とはまるで無縁に育ってきた私でさえがえらそうに，「演劇的色彩が強い。」と言いきってしまうほど，つか氏の小説に出てくる登場人物達は皆，お芝居をやっているようである。これがつか氏の小説の特徴の一つだと思う。

ここで挙げた「小説熱海殺人事件」は，そうしたつか氏の小説の中でも特に演劇性が強い作品である。それというのもこの作品は，つか氏の戯曲，「熱海殺人事件」を小説化したという極めて異例の作品だからだ。

ストーリーを紹介すると，地方出身のしがない工員・大山金太郎が女工殺しの容疑者として逮捕され，取り調べを受けるのだが，凶器はなんと手近にあった腰ヒモごときであるという。しかも犯行現場ときたら，こともあろうに熱海フゼイ。この箸にも棒にもかからないような殺人事件を，警視庁の名刑事といわれた"くわえ煙草伝兵衛"刑事らが，おのれの刑事的美意識のおもむくままに，いかにして美的な大犯罪事件として成長させていくのか，そこに焦点があてられている。

更にこの「小説熱海殺人事件」には続編の「弁護士バイロン」があるのだが，ついでにこちらも紹介すると，栄光の死刑囚を目指して大山金太郎は裁判に臨むが，そこには金太郎を無実に陥れようとする難敵・二階堂君彦弁護士が立ち塞がる，という展開である。この大筋を読めばわかってくれたかと思うが，まるで世の常識の逆をいっていることがうかがい知れよう。

他のつか作品同様，このような奇想天外なストーリーを展開することによって，この作品もまた，優れた喜劇としての評価をうけているようである。だがつか氏はただ単なる喜劇には終わらしてはいない。その独特のストーリー展開同様，逆説的に鋭い批判的精神も発揮しているのだ。

この作品において，平凡に育ってきた容疑者・金太郎が，殺人を犯すに値する陰惨な過去がない，と伝兵衛刑事になじられる場面がある。つまり人を殺せばすぐに殺人者になれるというわけではなく，他者に誇れる悲愴な過去がなければ栄光の殺人者にはなれないといっているわけだが，これなどは現代の日本人を痛烈に皮肉っているといえよう。なにせ今や，過去のない者は苦労が足りないと軽蔑され，悲愴な過去を持つ者こそがその過去を自慢げに吹聴し，他の人々から同情され，けなげであるとして他人から認めてもらえるという，平凡を悪とするゆがんだ世の中なのだから。その端的な例として，かの日航機事故の川上慶子さんが挙げられる。彼女は世間の過剰気味ともいえる同情を一身に集め，かわいいがゆえに必要以上にまつり上げられ，一躍特権階級にさせられてしまったという，つか氏の批判的精神が鋭いがゆえに正につか文学の世界を地でいった女の子であるといえよう。(この例の場合では無論，彼女は自分の過去を自慢するなどということはしていないわけで，大々的な報道がその代わりをしていたといえる。)

このように，確かな批判的精神を，その作品で存分に発揮しているつか氏なのだが，まだまだ一般に喜劇作家としてのイメージばかりを強く持たれているようで，それが非常に残念である。

新　着　図　書　目　録

※印は図書館　他は各教官の研究室に所在するものを分類別受入順に記載

総　　記

朝日新聞縮刷版　昭和60年1月～8月号　朝日新聞社※
福島民報縮刷版　昭和60月2月～7月号　福島民報社※
福島県年鑑　1985　福島民友新聞社※
藤田宏達
　人類の知的遺産　18　善導　講談社※
安藤彼太郎
　〃　〃　31　ガリレオ　同※
鶴見俊輔
　〃　〃　60　デューイ　同※
荒木昭太郎
　〃　〃　29　モンテーニュ　同※
富永健一
　〃　〃　79　現代の社会科学者　同※
中川久定
　〃　〃　41　デイドロ　同※
　住宅地図　いわき市内郷・常磐版　ゼンリン※
　住宅地図　いわき市勿来・植田・遠野田人版　同※
　住宅地図　いわき市小名浜　同※
福島県教育委員会
　歴史の道　3　福島県教育委員会※
いわき市史編さん委員会
　いわき市史第十巻　近代資料1(下)　いわき市教育文化事業団※
辻　達也
　大岡政談2　東洋文庫　439　平凡社※
姜　沆他
　看羊録　〃　〃　440　同※
岩本　裕
　ラーマーヤナ2　〃　〃　441　同※
足立喜六他
　入唐求法巡礼行記2　東洋文庫　442　同※
前嶋信次
　アラビアンナイト別巻　〃　〃　443　同※
伊勢貞丈
　貞丈雑記1　〃　〃　444　同※
今西春秋
　真城録　〃　〃　445　同※
伊勢貞丈
　貞丈雑記2　〃　〃　446　同※
寺島良安
　和漢三才図会1　〃　〃　447　同※
村尾嘉陵
　江戸近郊しるべ　〃　〃　448　同※
池田　修訳
　アラビアンナイト13　〃　〃　449　同※
岡　利郎
　民友社思想文学叢書3　山路愛山集　三一書房※
平林　一
　〃　〃　6　民友社文学集　同※
松本三之介他
　中江兆民全集3　岩波書店※
　〃　6　同※
　〃　12　同※
　〃　13　同※
　〃　14　同※
徳富蘇峰記念塩崎財団
　民友社関係資料集　別巻　三一書房※
高山正也
　講座情報と図書館4　雄山閣出版※
日外アソシエーツ
　レファレンスノール活用マニュアルQ&Q　紀伊国屋書店※

哲　　学

字都宮芳明
　ハイデッガー選集33　ロゴスモイラ・アレーティア　理想社※
田中直造
　宗教改革著作集7　ミュンツァーカールシュタット　教文館※
中村　茂
　〃　〃　11　イングランド宗教改革　同※
相良　亨他
　講座　日本思想5　美　東京大学出版会※
仏教思想研究会
　仏教思想9　心　平楽寺書店
二葉憲香他
　鎌倉と真宗　読売新聞社
土居健郎
　義と義　弘文堂
弘法大師空海全集編纂委員会
　弘法大師・空海全集6　筑摩書房※
　〃　〃　7　同※
中村瑞隆
　仏教を読む4　ほんとうの道　集英社※
　〃　〃　6　迷いを超える　同※
大森荘蔵他
　新岩波講座　哲学1　岩波書店※
井ノ口泰淳他
　講座密教文化3　密教のほとけたち　人文書院※
岩田靖夫他
　新岩波講座　哲学7　岩波書院※
中田勇次郎他
　講座密教文化2　人文書院※
倉田　清他
　現代キリスト教用語辞典　大修館
D. Gobbay 他
　Handbook of Philosophical Logic　Synthese Library
Francis Edwards 他
　The Jesuits in England　Burns & Oates

歴　　史

「角川日本地名大辞典」
編纂委員会
　角川地名大辞典3　岩手県　角川書店※
　〃　〃　9　栃木県　同※
松本雅明他
　日本歴史地名大系44　熊本県の地名　平凡社※

同史大辞典編集委員会
国史大辞典5　吉川弘文館
小田　実
20世紀思想家文庫15　毛沢東　岩波書店
日本地図センター
THE NATIONAL ATLAS OF JAPAN日本国勢地図　日本地図センター
参謀本部陸軍部測量局
五千分一東京図測量原図　同
国土地理院
集成図地図で見る東京の変遷　同
「角川日本地名大辞典」編纂委員会
竹内理三
角川日本地名大辞典30　和歌山県　角川書店
〃　〃　37　香川県　同
福井英一郎
世界地理15　ラテンアメリカII　朝倉書店
日本地図センター
日本立体地勢図　標準版　アルミ枠付福島　日本地図センター
〃　〃　集成図　東京　同

社会科学

坪井洋文他
日本民族文化大系10　―家と女性―　小学館
斉藤　真
マクミラン世界歴史統計(III)　南北アメリカ　大洋州篇　原書房
宮家　準
民衆宗教史叢書6　御嶽信仰　雄山閣
伊藤唯真
〃　〃　11　阿弥陀信仰　同
西垣晴次
〃　〃　13　伊勢信仰II　同
武田清子他
日本文化のかくれた形　岩波書店
栗本慎一郎
経済人類学　東洋経済新報社
森　浩一
日本民俗文化大系13　技術と民俗(上)　小学館
雄川一郎他
有斐閣六法全書　昭和60年版I・II　有斐閣
宮沢健一
現代経済学の考え方　岩波書店
経済企画庁
経済白書　昭和58年・59年版　大蔵省印刷局
志賀英雄他
道徳教育の基礎　ミネルヴァ書房
村田　昇
道徳教育論　現代の教育学2　同
日本経済新聞社
ゼミナール日本経済入門　日本経済新聞社
文部省教育管理研究会
教育管理職員　教育開発研究所
文部省地方教育行政研究会
教師の権利と義務　第一法規
網野善彦他
日本民俗文化大系11　都市と田舎　小学館
大林太良他
日本民俗文化大系5　山民と海人　同
網野善彦他
〃　〃　6　漂泊と定着　同
大林太良他
〃　〃　7　演者と観客　同
坪井洋文他
〃　〃　8　村と村人　同
宮田　登他
〃　〃　9　暦と祭事　同
坪井洋文他
〃　〃　10　家と女性　同
森　浩一他
〃　〃　13　技術と民俗(上)　同
平野智美他
人間の教育を考える　道徳と教育　講談社
村田昇彦
〃　〃　家庭の教育　同
長尾十三二
〃　〃　教師の力　同
碓井正久
〃　〃　社会教育　同
金田数正
ORによる輸送・運搬計画　内田老鶴圃
石塚尊俊
日本の祭り　第7巻　中国・四国　講談社
藤田広一
教学科における教育工学　共立出版

自然科学

村上陽一郎
20世紀思想家文庫14　ハイゼンベルグ　岩波書店
井坂　清
ブルーバックスB 595 性と健康の事典　講談社
森　正武
岩波講座　情報科学18 数値計算　岩波書店
長谷川一郎
ハレー彗星物語　恒星社厚生閣
斉藤国治
アストロ・ライブラリー　飛鳥時代の天文学　河出書房
斉田　博
〃　〃　宇宙の挑戦者　同
長谷川一郎
〃　〃　彗星カタログブック　同
神保　徹
〃　〃　星空マイコン教室　同
磯部琇三
〃　〃　講座　太陽系1　同
西城恵一他
工作による天体観測　共立出版
森　正武他
岩波講座情報科学18 数値計算　岩波書店
高橋　甫他
微生物学(上)(下)　培風館
志田正二
化学辞典　森北書店
建設省河川局
雨量年表　昭和58年　日本河川協会
横浜康継
ブルーバックス600　海の中の森の生態　講談社
丸山工作
〃　〃　601　分子生物学入門　同
鈴木義一郎
〃　〃　602　統計学で楽しむ　同
米田信夫他
岩波講座情報科学9　プログラム言語　岩波書店
科学技術庁
科学技術白書　昭和59年版　大蔵省印刷局
青木一芳
実験確率論入門　工学図書
林　主税
実験物理学講座4　真空技術　共立出版
野口正一他
岩波講座　情報科学5　岩波書店
岡部恒治
次元からの発想　ブルーバックス　B 608　講談社
早川　毅
実験計画法の基礎　朝倉書店
斉藤正男
生体工学　コロナ社
朝永振一郎
朝永振一郎著作集　別巻2　みすず書房
森口繁一他
岩波講座　情報科学2　電子計算機への手引き　岩波書店
小林直正
水汚染の生物検定　サイエンティスト
宮川　洋
岩波講座情報科学4　情報と符号の理論　岩波書店
吉野孝一
生物学で楽しむ　B 612　講談社
分子科学研究振興会
分子の世界　化学同人
高分子学会
高分子科学演習　東京化学同人
千原秀昭他
化学英語の活用辞典　化学同人
日本化学会
身近な現象の化学　培風館
井上幸信
プログラム学習　電子で考える有機化学　講談社
滝山一善
電子顕微鏡分析法　共立出版
国際科学振興財団
科学大辞典　丸善
柿内賢信
人間の教育を考える　自然科学と教育　講談社
日本国際地図学会編
地図学用語辞典　技報堂出版
磯部　孝他
実験物理学講座3　情報処理技術　共立出版
渋谷政昭他
岩波講座情報科学11　データ管理算法　岩波書店
佐藤方彦
ブルーバックスB 618　人はなぜヒトか　講談社
有山正孝
振動・波動演習　裳華堂
〃　〃
振動・波動　同
日本化学会
化学を楽しくする5分間　化学同人
中川直哉
分子の中の電子の流れ　講談社　サイエンティフィク
浦井良幸他
BASICによる高校数学へのアプローチ　培風館
大房　剛
ブルーバックスB 619　シーベジタブル　講談社
山崎　稔
〃　〃　B 620　暮らしの中の化学質問箱　同
荒井孝和

〃　〃　B 622 人間の手の話　同 ✣

科学技術和英表現辞典刊行会編
科学技術和英・表現大辞典　Vol1 Vol2 Vol3　小倉書店
〃　〃
科学技術論文報告書その他の文書に必要な英語文型文例辞典　同

戸田盛和
朝永振一郎著作集　別巻1　みすず書房✣

久保田稔
ブルーバックスB 605 脳の手帖　講談社✣

福島　肇
〃　〃　B 606 物理のABC　同 ✣

岩崎賢彰
銀太陽系45億年の旅　同 ✣

Elwyn R. Berlekonap
Algebraic Coding Theory　Aegeanpark Press

Peter L. Duren
Theory of HP Spaces　Academic Press

G. Ludwig
Foundations of Quantum Mechanics II　Springer

G. Wechsung
Frege Conference 1984　Academie

A. Dold
Methods in Mathematical Logic　Springer

H.G. Schuster
Deterministic Chaos: an Introduction　Physik-Verlog

工　学

日本橋梁建設協会編
日本の橋一鉄の数百年のあゆみ一　朝倉書店✣

田中五郎他
トラス橋の設計　土木構造物設計シリーズ　オーム社✣

長尾義三
物語　日本の土木史一大地を築いた男たち一　鹿島出版会✣

高橋　裕
グラフィックス　くらしと土木1　オーム社✣

土木学会
水理公式集　昭和60年版　土木学会✣

日本機械学会編
機械工学便覧　A 4　基礎編
B 2　応用編　B 4　日本機械学会✣

東京大学出版会
材料テクノロジー構造材料〔1〕金属系　東京大学出版会✣

宝山昌男他
〃　〃　アモルファス材料　同 ✣

寺野寿郎
エンジニアリング・サイエンス講座24
システム工学入門　共立出版✣

増田純男
スペースシャトル　同 ✣

丹野頼元他
センサの基礎とその応用　森北出版

樋口登志男他
CAD解説一その導入のために一　実教出版

小島忠宜他
固体の電子構造と物性（上）（下）　現代工学社

小松原毅一
磁電子物性　同

土木学会
コンクリート・ライブラリー第48号
コンクリート構造の限界状態設計法試案　土木学会

篠崎　守
実務に即した図解建築測量　彰国社

建設省河川局
流量年表　昭和58年　日本河川協会

電気学会ホームエレクトロニクス調査専門委員会
ホームエレクトロニクス　電気学会

機材ハンドブック編集委員会
建設工法機材ハンドブック　建設産業調査会

金嶋　均
ブルーバックス603 つかむ自然エネルギー　講談社✣

大谷忠雄
MP－85 マイコン制御入門　啓学出版

東工大無線研究部
PC－8801 パソコン制御術入門　昭晃堂

藤田義明
工業英語の正しい訳し方　南雲堂
〃　〃
工業英文説明書一実例と書き方　同

中村英夫他
測量学　技報堂

大木　創
ステップモータの理論と応用　実教出版

定成信政
マイコンロボット製作入門　マイテック

藤原　修
図解メカトロニクス入門シリーズ　インタフェースの電子回路入門　オーム社

雨宮好文
センサ入門　同

松井信行
図解メカトロニクス入門シリーズ
アクチュエータ入門　オーム社

妹尾允史
電子機械制御入門　同

末松良一
制御用マイコン入門　同

大熊　繁
ロボット制御入門　同

油田信一他
マイコンによるロボット制御　CQ出版

秋山桂一
セメント・コンクリートの化学　掘越研究所

日本道路協会
道路土工施工指　日本道路協会

宝山昌男他
材料テクノロジー12 構造材料〔11〕非金属系　東京大学出版会✣

小島紀男他
パソコンBASIC数値計算1　東海大学出版会

工藤文彦他
PC－8801 グラフィックスのすべて　アスキー出版

山田義昭
はじめて学ぶ材料力学　技術評論社

藤田義明
工業技術英語の構文　南雲堂

岡村弘之
強度解析学〔1〕　オーム社

阿部武治
〃　〃〔11〕　同

朝田泰英他
機械構造強度学　同

岩瀬正幸他
PC－9801 マシン語入門　アスキー出版局

Les. Hancock 他
C言語入門　同

村越康治
はじめて読む　アセンブラ　同
〃　〃
〃　〃　マシン語　同

加藤一郎
図解メカニカルハンド　ロボットの手図鑑　工業調査会

木下源一郎
ロボット技術への挑戦　生産革命に向かって　同

竹内寿太郎他
大学課程　電機設計学　オーム社

吉川和広
土木プランニングのすすめ　技報堂

柴法清蔵
大学課程　水理学　オーム社

土木工学全集編集委員会
土木工学全集11 水理学　理工図書

能城正治他
土質力学の基礎　技報堂

石田　昭
演習　水理学　森北出版

玄　光男他
マイコンOS　共立出版

大谷降一他
環境・高温強度学　オーム社

西谷弘信
疲労強度学　同

福垣道夫他
＜溶接技術シリーズ＞1. 中・厚板軟鋼溶接のかんどころ　産業産業出版
〃　〃
＜　〃　〃　＞4. 新しい溶接方法のかんどころ　同
〃　〃
＜　〃　〃　＞6. 薄板軟鋼溶接のかんどころ　同

浜田晋作
＜　〃　〃　＞11. 異種金属溶接のかんどころ　同

仁熊賢次他
＜　〃　〃　＞12. 鋳鋼・鋳鉄溶接のかんどころ　同

妹島五彦他
＜　〃　〃　＞13. 溶接管理のかんどころ　同

社団法人計量管理協会
センサの原理と使い方(1)(2)(3)　コロナ社

豊田　実
センサとマイコンインタフェース（コンピュートロール）　同

柳田博明
セラミックセンサー　講談社

雨宮好文
センサ入門　オーム社

奈良　久他
情報処理演習　培風館
大気汚染物質レビュー　エーロゾル　日本科学技術情報センター
〃　〃　〃　多環芳香族炭化水素　同

斉藤雄一
データ通信のはなし　日刊工業新聞社✣

大島光雄
イメージセンサの選び方・使い方　同 ✣

中川勝久
実験で学ぶ光ファイバ　啓学出版✣

光成豊明
デジタイザの使い方—PC—8801＋マイタブレット— 同 ✣
角田秀夫
実用ディジタル回路 東京電機大学出版局✣
〃 〃
実用オペアンプ回路 同 ✣
中田和男他
図解音声デバイス活用の実際 オーム社✣
山本 孚
やさしいディジタル伝送 電気通信協会✣
小宮寛治
超高真空がひらく世界 ブルーバックス B 609 講談社✣
杉山英男
木造の家は地震に強いか 〃 〃 B 611 同 ✣
中嶋 稔他
確率有限要素法入門 培風館
渡辺昭俊
はじめて学ぶ機械製図法 技術評論社
見城高志他
モータのマイコン制御 総合電子出版社
太平洋工業株式会社編
すぐに役立つ電子工作 日刊工業新聞社
野沢繁之他
マイコン制御とアセンブラ入門 技術評論社
河西朝雄
CP/M86 VSMS-DOS 同
戸川吉孝他
パソコン計測制御とインターフェース活用法 同
須田健二他
メカトロニクス入門 共立出版
日本道路協会
第2版 道路用語辞典 丸善
鈴木忠義他
土木工学大系 30 彰国社版✣
赤木俊允他
〃 〃 34 同 ✣
日本プレーティング協会
現場技術者のための実用めっき(1)(11) 槇書店
藤木文彦
98 Fan books 2 98マシン語 技術評論社
角谷博孝他
〃 〃 3 98 ユーティリテイ&内部ルーチン解析 同
脇 英世
FMシリーズ 機械語入門 オーム社
西川 工
<溶接技術シリーズ>2アルミニウム溶接のかんどころ 産報出版
セメント協会
コンクリート技術者のためのセメント化学 補論 セメント協会
泉 満明他
新しいスラブ橋の設計 オーム社
成井 信他
コンクリート構造物の維持と補修 鹿島出版会
四俵正俊他
構造力学ノート 技報堂出版
鈴木光男他
社会システム 共立出版
八十島義之助他
交通計画 技報堂出版
古林 隆
ネットワーク計画法 培風館
農業土木学会
測量トレーニングノート コロナ社
日本コンクリート工学協会
コンクリート品質の早期判定指針 工学協会
〃 〃 〃
回収水研究委員会報告書 同
〃 〃 〃
第7回コンクリート工学年次講演会論文集 同
山中敬之助他
詳解ディジタル・アナログ通信方式(上巻) サウンダースホルト✣
小沢慎治
基礎 通信工学 実教出版✣
辻井重男他
ディジタル信号処理の応用 電子通信学会✣
宮川 洋他
ディジタル信号処理 同 ✣
海老原大樹他
ステッピングモータ活用技術 工業調査会✣
大坂之雄
電子物性演習 コロナ社✣
鈴木久喜
音声のディジタル信号処理(上)(下) 同 ✣
鶴渡江章他
電気機器学 電気学会✣
南宮好文
現代電磁波工学 オーム社✣
山中敬之助
通信方式 マグロウヒル✣
関 英男
情報理論 オーム社✣
平松啓二
通信方式 コロナ社✣
横田英一
続 Z－80の使い方 オーム社
桜井千春
Z－80マシン語プログラミング入門 技術評論社
横山直隆
Z－80マイコン実習入門 同
矢川元基他
有限要素による熱応力クリープ熱伝導解析 サイエンス社
河西朝雄
N88－BASIC 100％活用法 技術評論社
金沢 修
The BASIC B-NUMBER123 同
野沢繁之他
マイコン制御とアセンブラ入門 同
河西朝雄
98グラフィックス入門 同
戸内順一
困った時に開く本 同
関岡清次他
8086ツールライブラリ 同
戸内順一
リレーショナルデータベースの招待 同
バインス情報センター
αBASE Ⅱ バイブル 同
戸川吉孝他
パソコン計測制御とインターフェース活用法 同
Les.Hancock 他
C言語入門 アスキー出版
C言語研究会
Cサンプル&ツール集 技術評論社
尾島俊雄
都市リモートセンシングシリーズ 朝倉書店
高橋義造
計算機方法 コロナ社✣
堀内征治他
最新マイコンBACIC規格表 CQ出版社✣
日本マイコンクラブ
最新マイコン周辺LSI規格表 同 ✣
〃 〃
最新メモリIC規格表 同 ✣
〃 〃
最新トランジスタ規格表 同 ✣
〃 〃
最新トランジスタ互換表 同 ✣
〃 〃
最新FET(電界効果トランジスタ)規格表 同 ✣
〃 〃
最新電力用素子規格表 同 ✣
〃 〃
最新リニヤIC規格表 同 ✣
〃 〃
最新TTLIC規格表 同 ✣
〃 〃
最新インターフェース素子規格表 同 ✣
木村重信他
製図記号(全科) パワー社✣
加藤 晃他
グラフィックスくらしと土木(3)交通 オーム社✣
手秋信一他
〃 〃 (4)エネルギー 同 ✣
野口 功他
〃 〃 (5)トンネル 同 ✣
伊藤 学他
〃 〃 (6)橋 同 ✣
樋口忠彦
〃 〃 (8)都市 同 ✣
橋本 尚
電気の手帖 B 614 講談社✣
木村雄雄
作る 日曜大工 B 615 同 ✣
西田和明
組み立てる IC工作 B 616 同 ✣
古崎新太郎他
マイコンによる化学工学計算 培風館
プラスチックフィルム研究会
プラスチックフィルム—加工と応用— 技報堂
粉体工学会
粉体工学用語辞典 日刊工業
線 伸宜
最新石油化学 講談社
松田武彦他
ハイテク時代を読む最新科学技術の常識 東洋経済新報社
山内俊吉他
ファインセラミックス新素材 日刊工業
川田忠樹
歴史のなかの橋とロマン 技報堂
加藤宣利
虹よ永遠に ぎょうせい
区画整理対策全国連絡会議編
都市再開発はこれでよいか 自治体研究社
日本音響材料協会
遮音構造資料集(Ⅱ) 日本音響材料協会
池上文夫
応用電波工学 コロナ社✣
時田元昭
最新ダイオード規格表 CQ出版✣
堂山昌男他
材料テクノロジー3 材料の電磁気光学物性 東京大学出版会✣
中田和男
音声 コロナ社✣

中島平太郎他
応用電気書　同 ✣
宮田弘之介他
工事工程管理　鹿島出版会
準原健彦
最新ＦＥＴ規格表　ＣＱ出版
森　貞彦他
機械製図の考え方・すすめ方　工業調査会
種田剛一
ハイテク迷とき読本　ＰＡＲＴ１　オーム社
神保元二
ブルーバックスＢ 613 粉体の科学
講談社✣
材料大辞典編集委員会
材料大辞典　産業調査会
オペアンプ／コンパレータ　データブック　セミコンダクタージャパン✣
相原隆文
手作りマイコン　技術評論社
宮本義博
ディジタル情報回路の基礎　同
久保大次郎
トランジスタダイオードの使い方
ＣＱ出版社
時田元昭
最新トランジスタ規格表　同
中野正次
実践マクロ・アセンブラ活用法　同
押野崇芳
ＣＰ／ＭによるＺ80マクロアセンブラ入門
日刊工業新聞社
〃　〃
8086／ビットＣＰＵアセンブラ入門　同
志水英二他
マイコンを用いた自動システムの設計
同
北川一雄
制御用マイコンの実用化プログラミング
同
Robert T. Ratoy
Handbook of Temporary Structures in Construction　McGraw-Hill
Bridges Aesthetics and Design 1982
ＤＶＡ✣
Karlheinz
Vorlesungen über Stahlbau
Ernst&Sohn
A. Pflüger
Beispielrechnungen zur Statik der Stabtragwerke　Springer
Philip Kissam
Surveying for Civil Engineering
McGraw-Hill
M. Crocker
Inter-Noise '83
Institute of Acoustics
V. S. Ramachandran
Concrete Admixtures Handbook
Noyes
L. Dolar-Mantuani
Handbook of Concrete Aggregates
同
D. R. Wilson
Microcomputers　Elsevier
Richard Rossner
Technical English Reader 2
Macmillan Press
C. N. Koster
Computer aided Design in Civil Engineering　ASCE
Thomas M. Thompson
From Error-Correcting Code through Sphere Packing to Simple Groups
MAA

産　業

山口平四郎
交通地理の基礎的研究　大明堂
奥野隆史
地域と交通論　同
山口平四郎先生定年記念事業会
地域と交通　同
有末武夫他
交通地理学　同

芸　術

宇佐美圭司
20 世紀思想家文庫 13　デュシャン
岩波書店✣
矢引晴一郎
ブルーバックスＢ 597　パソコンミュージック入門　講談社✣
フィールドディ
〃　〃Ｂ 599　フィールド写真入門　同 ✣
マニー．L．ビックマン
浮世絵版花（18回）　ボストン美術館 2
小学館✣
体育學會
体育と競技 37 14 巻 1 － 4　第一書房
〃　〃　38　〃　5 － 8　〃
〃　〃　39　〃　9 － 12　〃
〃　〃　40 15 巻 1 － 4　〃
〃　〃　41　〃　5 － 8　〃
〃　〃　42　〃　9 － 12　〃
〃　〃　43 16 巻 1 － 4　〃
〃　〃　44　〃　5 － 8　〃
〃　〃　45　〃　9 － 12　〃
〃　〃　46 17 巻 1 － 4　〃
〃　〃　47　〃　5 － 8　〃
〃　〃　48　〃　9 － 12　〃
〃　〃　49 18 巻 1 － 4　〃
〃　〃　50　〃　5 － 8　〃
〃　〃　51　〃　9 － 12　〃
〃　〃　52 19 巻 1 － 4　〃
〃　〃　53　〃　5 － 8　〃
〃　〃　54　〃　9 － 12　〃
石戸　忠
ブルーバックス　604　描く植物スケッチ
講談社✣
太田博太郎他
全集日本の古寺 16 高野山と吉野・紀伊の古寺　集英社✣
〃　〃
〃　〃　2　鑑倉と東国の古寺
同 ✣
〃　〃
〃　〃　6　延暦寺・園城寺・西教寺
同 ✣
〃　〃
〃　〃　7　京の密教寺院　同 ✣
〃　〃
〃　〃　14 飛鳥・南大和の古寺
同 ✣
〃　〃
〃　〃　18 四国・九州の古寺
同 ✣
福原祐三他
ママさんバレーボール　成美堂
松平康隆他
現代スポーツコーチ全集　バレーボールのコーチング　大修館書店
手島　昇他
体育実技叢書 3　バスケットボールの指導
道和書院
学校体育研究同志会
学校体育叢書　バレーボールの指導
ベースボールマガジン社
大西鐵之祐
体育図書館シリーズ 37　ラグビー，フットボール　不昧堂
福田雅之助
旺文社スポーツ教室　テニス（硬式）
旺文社
中野八十二
〃　〃　剣道　同
前川峯雄他
現代体育学研究法　大修館
東京都立大学身体適性学研究室
日本人の体力標準値第三版　不昧堂
（財）日本レクリエーション協会
レクリエーション体系（全３巻）
①　レクリエーションと現代　同
②　〃　〃　の展開　同
③　〃　〃　の科学　同
石田瑞勝他
全集日本の古寺 15 四天王寺と大阪・兵庫の古寺　集英社✣
太田博太郎他
全集　日本の古寺 4　同 ✣
中村民雄
史料　近代剣道史　島津書房
松田岩男他
人間の教育を考える　身体と心の教育
講談社
土門　拳
土門拳全集 2．古寺巡礼 2．大和編下
小学館
〃　〃
〃　〃　3．〃　3．京都　同
〃　〃
〃　〃　4．〃　4．全国　同
〃　〃
〃　〃　5．女人高野　室生寺　同
〃　〃
〃　〃　7．伝統のかたち　同
〃　〃
〃　〃　8．日本の風景　同
〃　〃
〃　〃　9．風貌　同
〃　〃
〃　〃　11．筑豊のこどもたち　同
〃　〃
〃　〃　12．13．傑作選（上・下）　同
飯野睦毅
横綱レタリング大辞典　東陽出版✣
高木隆司
ブルーバックスＢ 543　スポーツの力学
講談社✣
森　秀人
〃　〃　Ｂ 598　フイッシング・サイエンス　同 ✣

語　学

諸橋轍次
大漢和辞典　巻 7.8.9　大修館
天満美智子
外国語習得のスキル－その教え方－
研究社
芳賀　純
心理言語学入門　同
宮原英種他
〃　〃　新曜社
天満美智子
言語学と語学教育　研究社

池田貴三雄
英文用例事典<文法><文型><イディオム> 日本図書ライブ
荒　泰彦
日本語と日本人の発想 日本教文社
国松孝二他
独和大辞典 小学館
小西友七
英語シノニムの語法 研究社
秋山宜夫他
外国人が日本人によく聞く100の質問 三修社
堀内克明他
What's What 英語図解大辞典 小学館
山田虎雄
英単語記憶辞典 開文社
熊山晶久
英語冠詞用法辞典 大修館

文　学

市古貞次他
日本古典文学大辞典6 岩波書店
近藤春雄
日本漢文学大辞典 明治書院
山之内正彦他
中国古典詩選花7　美酒と宴遊 小学館
有島武郎
有島武郎全集14 筑摩書房☆

中島敏夫他
中国古典詩選花5 小学館
17世紀英文学研究会
ジョン・ダンとその周辺 金星堂
西川正身他
英米文学大辞典(第三版) 研究社
野上弥生子
野上弥生子全集1～8巻 岩波書店☆
柳野直彬
中国古典詩選花　中国古典詩総説 小学館
二葉亭四迷
浮雲あいびき ほるぷ出版☆
樋口一葉
たけくらべ 同☆
島崎藤村
若菜集 同☆
与謝野晶子
みだれ髪 同☆
泉　鏡花
高野聖 同☆
島崎藤村
破戒(上)(下) 同☆
夏目漱石
坊っちゃん 同☆
北原白秋
邪宗門 同☆
志賀直哉
暗夜まで灰色の月 同☆
夏目漱石
道草 同☆
森　鷗外
渋江抽斎 ほるぷ出版☆
永井荷風
濹くらべ 同☆
芥川龍之介
羅生門 同☆
萩原朔太郎
月に吠える青猫 同☆
有島武郎
或る女(前編)(後編) 同☆
宮沢賢治
春と修羅 同☆
井伏鱒二
さざなみ軍記 同☆
谷崎潤一郎
春琴抄 同☆
川端康成
雪国 同☆
徳田秋声
縮図 同☆
谷崎潤一郎
細雪(上・中・下巻) 同☆
大岡昇平
俘虜記　野火 同☆
井上　靖
天平の甍 同☆
三島由紀夫
金閣寺 同☆
遠藤周作
海と毒薬 同☆
森　孝子他訳
ロマン・ロラン全集13 みすず書房☆